

平成30年度第4回中仙地域協議会会議録

平成30年10月25日

中仙地域協議会

平成30年度第4回中仙地域協議会会議録目次

■開催日時	1
■開催場所	1
■出席委員	1
■欠席委員	1
■出席職員	1
■次第	1
■開会	2
■会長あいさつ	2
■支所長あいさつ	2
■会議録署名委員の指名	3
■案件	3
(1) 教育に関するアンケート調査の結果及び今後の学校統合について	3
(2) 大仙市中仙地域学校再編素案検討委員会委員の推薦について	7
(3) 地域公共交通再構築に係る意見交換について	8
■その他	14
(1) 支所各課所管の事務事業等について	14
(2) その他	14
■閉会	15
■署名	15

■日 時：平成30年10月25日（木曜日）午後3時

■会 場：中仙支所2階 第21会議室

■出席委員：13名

秋山吉雄、熊谷壽男、佐々木登代子、伊藤悟、遠藤まさ
渡部明美、高橋強、高橋トモ子、富岡喜榮、玉井勝壽
三浦和則、高橋朝夫、高橋泉

■欠席委員：4名

熊谷亮、佐々木堅一、伝農百合子、田口馨

■出席職員：15名

老松博行（大仙市長）	田口美和子（企画部まちづくり課長）
高山知洋（企画部まちづくり課副主幹）	川原潤哉（企画部まちづくり課主任）
吉川正一（大仙市教育長）	高野一志（教育指導部長）
築地高（教育指導部次長兼教育指導課長）	田口広龍（教育指導部教育総務課長）
佐藤吉一（中仙支所長兼地域活性化推進室長）	榊田成悦（市民サービス課長）
斎藤秋彦（農林建設課長）	高橋千秋（中仙公民館長）
大阪文博（農林建設課参事）	
山信田恭弘（地域活性化推進室主幹）	進藤哲規（地域活性化推進室主席主査）

■次 第：

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 支所長あいさつ
- 4 会議録署名委員の指名
- 5 案件
 - （1）教育に関するアンケート調査の結果及び今後の学校統合について
 - （2）大仙市中仙地域学校再編素案検討委員会委員の推薦について
 - （3）地域公共交通再構築に係る意見交換について
- 6 その他
 - （1）支所各課所管の事務事業等について
 - （2）その他
- 7 閉 会

(午後 3 時 0 0 分 開会)

○事務局（地域活性化推進室） 開会を宣言

○玉井勝壽中仙地域協議会長（以下「会長」と表記）

本日はお急がしのところ、多数ご出席いただきましてありがとうございます。本日は教育関係及び公共交通体系に関わることについてご審議いただくこととなっております。後ほど市長もお見えになるとのことですので、みなさんより忌憚のないご意見をいただきながら進めてまいりたいと思っています。本日は重要な案件でございますので、意義のある協議会にしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○佐藤支所長（以下「支所長」と表記）

本日はご多忙のところご出席いただきまして誠にありがとうございます。本日の協議案件は3件となっております。1件目は教育に関するアンケート調査の結果及び今後の学校統合について、2件目は大仙市中仙地域学校再編素案検討委員会委員の推薦について、3件目は地域公共交通再構築に係る意見交換についてとなっております。

【出席者を紹介】

それでは、最近の中仙支所管内の動きについてご報告させていただきます。

10月10日に第11回の大仙農業元気賞表彰式が開催されました。中仙地域より、北長野の玉井慎太郎さんが受賞しております。玉井さんは平成24年にりんどう栽培をはじめ、現在では700品種を栽培しており、お盆前から秋彼岸まで切れ目のない出荷を行っております。就農から7年目の若手ながらJA秋田おぼこの花き部会の副会長や、大仙市農業委員会の委員として活躍しております。

10月13・14日に第31回全国ジャンボうさぎフェスティバルを開催しております。両日とも好天に恵まれまして、特にイベント開催の14日には駐車場がいっぱいになるなど、例年にならぬご来場をいただいております。うさぎ品評会のほうですけれども、県内ならびに県外、宮城県、栃木県、愛知県、長野県より53頭の出陳となりました。ただ、今年の夏の、寒暖差の激しい、厳しい気象条件のせいもありまして、地元農家のうさぎの成育にも影響がでまして、例年より少ない出陳頭数となりました。成績でございますが、もっとも重い体重ジャンボ級は体重9.1キログラムで大曲小貫の松井良助さんが出展した「やえひめ号」が名誉賞を受賞しております。松井さんは昨年に引き続き2年連続の受賞となっております。

10月17日に平成30年度の大仙市技能功労者ならびに優良技能者表彰式が開催されております。中仙地域から豊岡の渡部敦史さんが優良技能者として受賞されております。渡部さんは仙北市の株式会社藤井工務店に就職されまして、寺社仏閣から一般住宅まで多数の施工実績があり、建築大工に関する多数の資格を有するなど、優れた技術が高く評価

されております。また、技能五輪全国大会において2年連続全国第2位という成績を収めております。

10月15日に中仙地域自治会連合会理事・地域協議会委員の合同研修会を開催しております。現在建設中の成瀬ダムの工事現場を見学し、説明をうけてきました。成瀬ダムは多目的ダムとして災害防止、農業用水や生活水の確保、発電の役割をもちます。玉川ダム、皆瀬ダムとともに雄物川水系下で大仙市の重要な治水対策事業となっております。昨年からは本體工事にかかっており、平成35年10月の試験湛水まで順次、展望台で進捗状況が見ることができるようになっていますので、今後も機会がありましたら、見学いただければと思います。

以上でございます。委員の皆様には今後ともご助言やご指導を賜りたいと存じますのでよろしく願いいたします。

○会長 それでは次第4の「会議録署名委員の指名」をいたします。中仙地域協議会運営規定第7条第2項により、議長が指名することとなっております。

今回は熊谷壽男委員、高橋強委員をお願いいたします。

次に、次第5「案件」の協議に入ります。はじめに「(1)教育に関するアンケート調査の結果及び今後の学校統合について」を議題とします。教育委員会より説明をお願いします。

○吉川正一大仙市教育長（以下「教育長」と表記）

本日は貴重なお時間をいただきありがとうございます。また、日頃から学校教育に対しご協力ご支援をいただきありがとうございます。本日は、前回実施しました、2回目になります「中仙地域における学校教育の今後の在り方についてのアンケート」の調査結果と、それをふまえた今後の統合等にかかる検討委員会の設置についてであります。前回もご説明いたしましたが、年々少子化の進む中、今後の学校教育の在り方や学校規模等につきまして、平成19年3月に有識者からのご提言をうけ、大仙ビジョンを策定、学校規模の適正化について各地域で説明を行い、今日に至っております。中仙地域における今回のアンケート調査でございますが、前にもお話ししましたとおり、まずは中学校の部活動について統合を考えてくれないかという意見が教育委員会によせられました。この声をうけまして、アンケート調査を進めてまいりました。本日は1回目のアンケート結果をうけまして、統合した場合の在り方をお聞きした2回目のアンケート結果のご報告と、今後の統合等にかかる学校再編素案検討委員会の委員のお願いのためにまいりました。

委員のみなさまにはそのような経緯をご理解いただき、検討委員の推薦などに特段のご理解とご協力をお願いいたします。本日はよろしく願いいたします。

○田口広龍教育指導部教育総務課長（以下「教育総務課長」と表記）

【資料に基づき説明】

○会長 ありがとうございます。ただいま、教育委員会より説明がありました。みなさんからご質問を受けたいと思います。

○高橋朝夫委員 中学校を1つにとの考えのようですが、現在の生徒数を教えてください。

○教育長 中仙中学校が169名、豊成中学校が52名です。

○高橋朝夫委員 合わせて200名ほどですか。小学校のほうがどうでしょうか。

○教育総務課長 清水小学校84名、豊川小学校54名、豊岡小学校68名、中仙小学校184名です。

○高橋朝夫委員 どのくらいを適正規模と言うのかわかりませんが、100名いるかいないかですと、はたして集団的な勉強というのができるのかという不安があります。先生方からすると1人1人に目がとどくというのは良いことなのでしょうけども。統合となる場合ですが、現在の中仙中学校の校舎はそのまま使えないものでしょうか。3年くらいかかるということのようですが。

○教育長 生徒数が少ないから集団学習が難しいとすぐにはなりません。実際学力も高いという結果もあります。私個人的には学校を減らしたくないという思いはあるのですが、やはり部活動が一番影響をうけています。小学校ではスポ少ですが。そして集団学習という面でも1クラス20名、それが1クラスしかないという状況です。県のしめす標準では1学年2学級はあったほうがなっています。

○高橋朝夫委員 豊成中学校は3校で1つの野球チームを作っていると聞きます。南外や桜木内といった遠いところとですので、はたして練習が可能なのかなど。

○教育長 今回、野球の新人戦で協和中・西仙北中の合同チームが郡大会で優勝したということもありますが、やはり親御さんの負担というのは大きいなど。

あと、ご質問のスペース的なことですが、現在の中仙中学校に豊成中学校の生徒が入っても大丈夫です。増設までは必要ありません。

○高橋朝夫委員 だとすればできるだけ早くしたほうがいいと思います。あと小学校についても統合が必要だと思いますが、中仙小学校に清水小学校も入るとすると校舎の築年数

などの状況はどうなのでしょう。

○教育長 小学校では、中仙小学校が一番古く、5、6年度後には大規模改修を行わないと厳しい状況です。今回のアンケートでは中仙小と清水小、そして豊成地区が1つという意見が一番多いのですが、いずれも児童数が減りますのでその際にまた新しい学校ということになってしまいます。

○高橋朝夫委員 そのような状況であれば、とりあえず今の中仙小学校に清水小学校を。豊成地区は比較的新しい豊岡小学校に豊川小学校という形かなど。通学の問題もあるでしょうが、そうしつつ新しい校舎を検討するというのが一番良いのではないのでしょうか。将来的に小学校1つ、中学校1つということ。

○教育総務課長 そういったご意見を今度の検討委員会でいただけたらと思います。

○教育長 中学校に関しては、他の地域と統合という事まではちょっと考えられませんので中仙地域内ということになると思います。小学校に関しては、今の中仙小学校に清水小学校と入るとなると、教室が足りなくなります。そして現在の場所は、川にも近いですし、広域となりますとスクールバスを近くで乗り降りということもあるでしょうからある程度、広く交通の便のよい敷地が必要ではないか個人的には思います。その辺も合わせてまして検討委員会で協議いただきたいと思います。

○会長 ほかにございませんか。

○高橋トモ子委員 この話を若い人達に話してみたら、10年前もこのような話があったと。それでも全然進んでいないと。私としては、中学校については問題ないのではないかと。ただ小学校については、今の中仙小学校では駐車場が狭いし、町道にできるための道も狭いです。バスの乗り入れも危ないなと感じます。熊の問題もあります。もし、小学校を建てるという計画があるのであれば、今の中仙小学校の場所では狭いし安全ではないと思います。いずれ小学校も今のままでは社会性が養われないし、大きな場所に言ったときにのびのびと交流できない子どもに育ってしまうのかなという心配はあります。

○教育長 4、5年先には豊岡小学校、豊川小学校には複式学級が2つできてしまう状況です。

○高橋朝夫委員 豊成地区に関しては、どちらかの学校にスクールバスで乗り入れれば統合が早くてもいいと思います。校舎をそのまま使えるのであれば。豊川小学校は4年生以外すべて1ケタの児童数という状況ですので。中仙小学校については、高橋委員のおっしゃられたとおり、水害の心配はあるし裏が山で熊の心配もあるということで、新しい場所

のほうが良いのではないかと。例えば、統合中学校を別の場所に建てて、今の中仙中学校を小学校に使うといったような考えも良いのではないかと思います。

○教育長 今の中仙中学校の校舎にすべての小学校が入るかという、入りません。やはり6学年ありますので。私見としては、中学校は今の中仙中学校をベースとしては。小学校は中仙中学区1校、豊成中学区1校にという案もあるのですが、これでも統合に4、5年はかかりますし、そのときにさらに児童数が減っていると。だったら、良い学校を1つ建てて小中連携した一貫校に近いような特色ある学校にしたほうが効果はあるのかなと思います。

○渡部明美委員 新設を考えているとすれば、小中が併設しているような形が良いと思います。学校や市役所や消防などが近くにある形が良いのではないのでしょうか。

○教育長 市長もこれからはコンパクトシティという構想もあるようです。スクールバスも小中が離れていると効率が悪いということもあります。

○高橋泉委員 一ヶ所に集約というのは利便性がいいなと思う反面、今までそれぞれの地区で、良い環境でくらしてきた子ども達ですので、引き続き良い環境でらせるのかなという心配はあります。それと統合した後に残される校舎はどうなるのかな。「地域の子ども」でもありますので、いろいろと考えることはあります。

○教育長 やはり地域から子ども元気な声がなくなる、スクールバスに乗ってすぐいなくなってしまうということは、これは寂しいものがあります。特に小学校はそれぞれの地域の大事なコミュニティでもありますので。残された校舎のことも含め、こういったことも今度の検討委員会で協議いただければなと思います。

○高橋強委員 中学校は3年後、小学校は6年後という話を聞きましたが、その頃児童数はどうなっているのか。また、このような状況を考えたときに、小中一貫校や様々な機能をもった総合施設といったものも考えているのでしょうか。また、学校を1つの場所にまとめたとき、中仙地域は昔から6つの地区の考え方が根強くありますのでそれがネックになるのかなと。しかし経費的なものを考えますと、分散するよりは一ヶ所が良いと思います。

○教育長 ご意見として承ります。ありがとうございます。

○高橋トモ子委員 実際に統合の話がでますと、地域の人達はかなり賛否両論があると思います。しかし、時代は流れています。前を向いて進んでいくべきだと思います。

○**遠藤まき委員** 中仙地域は、診療所、学校、市役所、銀行などが集約されている太田地域とは違い、凝縮されていません。実は太田地域のような形が住みやすい街なのかなと感じます。今後も進む少子化を考えたときに、どの形が子どもにとって良いのかを考えれば、おのずと答えはでていないのかなと思います。

○**会長** ほかにございませんか。

(なし)

なければ以上で「(1) 教育に関するアンケート調査の結果及び今後の学校統合について」を終わります。

次に「(2) 大仙市中仙地域学校再編素案検討委員会委員の推薦について」を議題とします。教育委員会より説明をお願いします。

○**教育総務課長**

【資料に基づき説明】

○**会長** ただいま教育委員会より説明がありました。みなさんからご質問などありましたらお願いします。

会議は3回から4回とのことですが、場所はどこを予定していますか。

○**教育総務課長** 未定ですが、ドンパルなどなるべく中仙地域で行いたいと考えています。

○**会長** ほかにございませんか。

(なし)

それでは推薦委員を選出するにあたって、事務局より説明があります。

○**事務局（地域活性化推進室）**

【資料に基づき説明】

○**会長** 事務局より説明がありました。それでは、推薦委員の選出になりますが、ただいまから少し時間をとりますので、小学校区ごとに、候補者1名を選出していただきたいと思います。

小学校区ごとに推薦委員を協議。決定後、会長に報告。

ただいま、中仙小学校区からは高橋トモ子委員、清水小学校区からは遠藤まき委員、豊

川小学校区からは高橋朝夫委員、豊岡小学校区からは高橋泉委員という報告がありました。この4名を中仙地域学校再編素案検討委員会委員に推薦することでご異議ございませんか。
(なし)

ご承認いただきました。ありがとうございました。推薦されました4名の委員の方につきましては、大変ご難儀をお掛けしますが、よろしく願いいたします。以上で「(2) 大仙市中仙地域学校再編素案検討委員会委員の推薦について」を終わります。

これで教育委員会より提案された案件協議は終了となります。ここで教育委員会のみなさんは退席となります。本日はありがとうございました。

準備のため、お時間をいただきたいと思いますので、暫時休憩といたします。4時15分に再開いたします。よろしく願いいたします。

【休 憩】

○会長 定刻となりましたので地域協議会を再開します。はじめに支所長より出席者のご紹介をさせていただきます。よろしく願いします。

○支所長

【出席者を紹介】

○会長 ありがとうございました。それでは案件の協議に入ります前に、市長よりご挨拶をいただきたいと思います。よろしく願いします。

○老松博行大仙市長（以下「大仙市長」と表記）

本日は大変お忙しいところ、通常の案件に地域公共交通再構築に係る意見交換ということでお時間をいただきありがとうございます。また、委員のみなさまには日頃より市民と行政との協働のまちづくりを推進する中心的な役割として、地域課題の解決に向けた地域枠予算の活用をはじめ、各種計画や施策への提言など、特段のご理解とご協力をいただいております。改めて厚く御礼を申し上げます。

さて、本日、地域公共交通につきましては、大仙市における重要施策のひとつとして位置づける分野であり、これまでも市の公共交通計画のもと、基幹路線である路線バスを維持しながら、その支線となるコミュニティバスや乗合タクシーを運行させ、地域の実情に沿った「市民の足」の確保に努めてきたところであります。

しかしながら、少子高齢化や人口減少の進行、路線バスのダイヤ縮小・廃止、運転免許証の自主返納による交通弱者の増加など、様々な問題が顕在化してきており、これまでどおりの交通システムでは対応が困難になってきていると認識しております。

また、毎年行っている市政評価におきましても、公共交通は要望度が高い施策のひとつとなっており、さらなる充実が求められているところであります。

大仙市では、こうした現状を踏まえまして、改めて市民の皆様の利用のしやすさや暮らしやすさに着目した、より良い地域公共交通の実現を目指すこととし、2020年度を目前に、交通システム全体を再構築したいと考えております。これまでは羽後交通の路線バスが廃止となりまして、その路線をどうするという観点で考えてきた地域公共交通ですが、そうではなくて、本当に市民のみなさんに利用してもらえる、そして暮らしに役立つ、そうしたものでできないかなということでもあります。

今年度は、その再構築に向けた調査の年と位置づけ、広報紙を活用したアンケート調査を実施するとともに、各地域協議会にて本日のように意見交換をさせていただき、市民の皆様から広くご意見やご提言をいただくこととしたところであります。本日も皆様から様々なご意見を頂戴したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

これまで南外地域協議会、太田地域協議会、本日が3番目となりましたけれども、最終的にはすべての地域協議会に伺って意見交換を行う予定となっております。

ここ中仙地域における公共交通につきましては、みなさんご存知のとおりでございます。現在、JR田沢湖線と羽後交通による生活バス路線として大曲角館線、そして地域公共交通につきましては、民間事業として乗合自動車利用事業による豊岡・清水の各地区から長野・角館線2系統5路線。また、平成28年度から乗合タクシー事業として杉沢中仙線1路線が運行されています。地域のみなさんのご意見ご要望をとりいれながら地域公共交通の運行にあたっているところでございますが、いずれの路線も利用者が減少しているということで、今後の課題となっているところであります。

本市では、こうした公共交通の状況や地域課題を踏まえ、どのような交通システムが適しているのか、あるいは限られた財源の中で市民の皆様から納得していただける交通システムはどうあるべきかを、皆様からのご意見のもと、しっかりと考えてまいりたいと思っておりますので、特段のご協力をよろしくお願いいたします。

結びになりますが、本日の意見交換会が有意義な機会となりますことをご期待申し上げまして、一言ご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○会長 ありがとうございます。それでは次第5「案件（3）地域公共交通再構築に係る意見交換について」、市民サービス課長から説明をお願いします。

○榊田成悦市民サービス課長（以下「市民サービス課長」と表記）

【資料にもとづき説明】

○会長 ただいま市民サービス課長より説明がありましたのは、第2回の地域協議会において委員のみなさんに個別に意見書の作成をお願いしまして、前回第3回の協議会で集約し作成したものです。それでは意見交換に入りたいと思いますが、この意見書案に関しまして、市長、まちづくり課よりご意見などございませんか。

○大仙市長　まずは、大変時間をかけて意見をまとめていただいたことに厚く御礼申し上げます。今日はまずご意見をうかがって、後日、地域別に検討する委員会を立ち上げ、それには地域協議会の代表の方もお願いしたいと考えていますが、そこで協議し、たたき台ができた段階で、再度地域協議会のみなさんにご意見をうかがいたいと考えております。中仙地域全体をカバーできれば一番良いとは思いますが、限られた財源、費用対効果を考えると難しい面もあります。今回の意見書案はその点も整理していただいていると思っております。現在行っているものをただ廃止ということではなく、それよりも良いものに変えていくという切り口で考えてまいりたいと思っております。ただ中仙地域のすべての方に100%満足いただくというのは難しいということもご了承願いたいと思っております。

1つのイメージとしては横手市の狙半内地区、先日もテレビにでていましたが、あそこは地元の方が共助という観点から雪下ろしから買物支援まで行っております。それに市のほうが支援すると。こういったやり方も1つしめされております。大仙市の公共交通も市がやるバス会社がやる、タクシー会社がやるといったことは決めていませんので、路線ごとにどの時間帯にどこを走らせるかによって決まってくるのかなと考えております。意見書案にあります、ドアツードアといいますか、自分の家の玄関から病院の入口までという要望があるのはわかります。体のあまり良くない方にはバス停までというのも難しいと思えますし。PRをもっとするよというご指摘もありましたが、そのとおりだなと思っております。あと、今回の再編は3年かけてフルモデルチェンジするというので、向こう3年は今の体制でいくわけですので、現在の体制についてももちろん改善点がありましたら直していきたいと思っております。

○田口美和子まちづくり課長（以下「まちづくり課長」と表記）

現在は第3期地域公共交通計画のちょうど中間の年になりまして、みなさまからご意見をいただいて、今のシステムの見直しも当然行います。それと合わせまして新しいシステムもご意見を頂戴しながら作ってまいりたいと考えております。地域のみなさんが、今のままのシステムが良くて、これにこことここを加えてくださいということもあるでしょうし、まったく今のものとは違うものというご意見もあると思っておりますので、今回の意見書を検討しながら進めてまいりたいと思っております。

○会長　ただいま市長より丁寧な説明がございました。せっかくの機会でございますので、委員のみなさんのほうからもご意見をいただきたいと思います。なにかございませんか。

○熊谷壽男委員　行政をあまり頼ってはいけないと思っております。市長のお話にてた増田の共助の取り組みは、私の周辺の地域では実際に行っております。買物や病院に行く際には隣近所を誘って連れて行っています。困ったときにすぐに行政を頼らずにまずは地域の中で解決することでコミュニケーションも生まれてくるのだと思っております。

○大仙市長 さきほど共助と申しましたが、冬の雪下ろしもそうですし、空き家の管理なども含めて、地域の中で助け合ってとできるのが理想だと思います。

○熊谷壽男委員 現在のバスを利用できれば良いのですが、その時間にあわない人もたくさんおります。その場合には地域で助け合ってと。それをバックアップするのが行政の役割なのではと考えます。

○大仙市長 地域の方が担う場合は、まったくボランティアということではなく有償の活動になるのではないかと思います。ただ、集落に助けてもらいたい方がたくさんいるんだけれども、支援する側の方があまりいなくなれば、例えば市のほうで運転する人を外から頼んでというやり方もあると思います。

○会長 ほかにございませんか。

○三浦和則委員 意見書で法定外目的税と言ったのは私なのですが、きめ細やかに、30人程度の集落ごとに2種免許のとれる方を2人くらい用意して、そのタクシーのようなことをする費用を税金で賄えるようにできたらなと思います。今、公共交通を使っていない人も、いずれ使うようになることに対する税金なので、みんなで支えていくという形がいいのではないかと。今のようにボランティアでということだとあまりなり手がいないと思いますのでパートのような形で雇うという考えもあると思います。

○大仙市長 委員のおっしゃられた、地域を細かく区切って決め細やかにという手法は共助ということで望ましいことでもありますので、検討させていただきたいと思います。特に大きな幹線沿いに住んでいる方はバスでということになりますが、そこから離れたところにお住まいの方については、なにか別の方法を考えてとなりますので費用対効果などを考慮しながら検討したいと思います。

○高橋泉委員 最近いろんな場所にショートステイやデイサービスなどの介護施設ができています。これらは朝むかえに来てもらって、帰りに自宅まで送ってもらおうと。その送迎車は日中ずっと施設に止まっています。これを見ていて、すごくもったいないなと感じます。あの送迎車を利用してということはできないのでしょうか。

○大仙市長 送迎車は止まっても運転手も空いているかとなるかどうなのかということかと。これはスクールバスも同じです。これらの利用については制度的なものがどうかを確認する必要がありますが、空いている車を有効活用するということは1つの考えだと思います。ありがとうございます。

○高橋トモ子委員 意見書に免許返納者への割引券使用可能路線に、とありますが、この

割引券はいつももらえるものですか。

○まちづくり課長 警察署で免許返納をされると、証明書がもらえます。それをもって大曲であればまちづくり課、それ以外であれば支所市民サービス課にもっていくと、割引券の使用可能な路線があれば窓口でお渡ししています。

○高橋トモ子委員 バスも、乗り合いタクシーも使えるんですか。

○まちづくり課長 使えます。中仙地域でいえば、杉沢中仙線であるとか大曲角館線になりますが、それを使えるところにお住みの方に限られてしまうのですが。

○高橋トモ子委員 希望者ということではないのですか。

○まちづくり課長 希望者でも大丈夫です。現在、中仙タクシーで行っている事業がこの割引券の対象になっていないとご意見だと思いますので、検討させていただきたいと思います。

○会長 ほかにございませんか。交通体系のこともですが、こうして市長さんにきてもらえることはそうないことですので、まちづくり関係のご意見も含めてありましたらお願いします。

○熊谷壽男委員 はじめの学校統合のこともですが、人が減っていく中で、どうしたら前向きに楽しく暮らしていけるのかを考えるべきだと思います。例えば、子どもが乗るスクールバス、これにお年寄りも乗せてはどうでしょうか。そうすれば子ども達も楽しいし、お年寄りから学ぶことがたくさんあると思います。こうやって地域のコミュニケーションをつくっていくことが大事だと。楽しいまちづくりが必要だと思います。

○大仙市長 協和地域では路線バスではあり、生徒が一般の方と一緒に乗っていますが、専用に認められたスクールバスに保護者や先生以外の方が乗れるかというのは、ちょっと難しいのではと思いますが確認の余地はあると思います。

○会長 ほかにございませんか。私のほうから、小さい話ではあるのですが、高齢者の健康増進といわれている中、大仙市でグラウンドゴルフ場がないのが中仙地域だけです。会場を作るにはお金がかかる、維持費もかかるというのであれば、例えば他の地域のグラウンドゴルフ場を利用する際に半額券のような補助ができないものでしょうか。

○大仙市長 新規につくって欲しいというのではなく、他の地域を利用した際に補助をといていうお考えは、理屈に合ったご提案だと思います。

○会長 なにか他の地域と平等になれる方法はないかなという提案です。

○大仙市長 グラウンドゴルフ場を一生懸命整備してきましたのですべての地域にあるものだと思っていました。違う話ですが、先日仙北地域において大仙市内で全天候型のテニスコートがないのは仙北だけだとのこと指摘をいただきました。いわれてみれば仙北だけ土のコートで風が吹けば土ぼこりが舞うといった状況で、計画に組み込まなければいけないなと思いました。同じように中仙地域ではグラウンドゴルフ場だなと思いました。中仙地域はどこでグラウンドゴルフを行っていますか。

○会長 支所前の広場で行っていますが、サッカーなど別の用途でも使われていますので、芝の長さなども違います。一生懸命管理をしてくれてはいるのですが。

○大仙市長 地域外に行かれる場合は、どちらでしょうか。

○会長 仙北市では花葉館、あと太田地域の奥羽山荘です。協和地域の米ヶ森や神岡の嶽にも行きます。

○大仙市長 なにかしら考えたいと思います。同好会の組織のようなものがあるのでしょうか。

○会長 あります。会員は100名程度ですが、集落単位でやっているところもありますので、地域としてグラウンドゴルフ人口はかなりいると思います。

○高橋朝夫委員 公民館にもなくて小学校のグラウンドを借りてやっているという話を聞いたことがあります。

○支所長 それぞれの地区に小さいものはあるのですが、小さいとはいっても管理が大変なもので、しっかりやれと会長にいつもいわれています。

○大仙市長 実情はわかりました。ありがとうございます。

○会長 ほかにございませんか。
(なし)

○大仙市長 いずれこれで終わりではなくて、具体的な案ができましたらまたご意見をうかがいたいと思います。

○会長 この案件につきましては、ただいまの意見交換を踏まえまして、再度調整したも

のを中仙地域協議会の意見書として報告させていただくことといたします。以上で「(3) 地域公共交通再構築に係る意見交換について」の協議を終わります。

次に次第6「その他」に移ります。はじめに「(1) 支所各課所管の事務事業等について」各課長より報告をお願いします。

支所長

市民サービス課長

斎藤農林建設課長

高橋千秋公民館長

資料にもとづき説明。

○会長 ありがとうございます。ただいま各課長より事務事業等の報告がありました。委員のみなさんからなにかご質問などございましたらお受けいたします。

○遠藤まき委員 今回のジャンボウさぎでも感じましたが、今年はすごく暑かったのでもう少し屋根、パラソルのついたテーブルと椅子があればと思います。

○会長 ほかにございませんか。

(なし)

ないようですので、「(1) 支所各課所管の事務事業等について」の報告を終わります。

次に「(2) その他」に移ります。まちづくり課の方からお話があるようですのでお願いします。

○まちづくり課長

【資料にもとづき、ふるさと納税制度をPR】

○会長 ありがとうございます。みなさんからご質問などございましたらお願いします。

○高橋トモ子委員 反応はどうですか。

○まちづくり課長 10月1日よりはじめさせていただいておまして、去年は3000万円弱の寄付をいただきましたが、今年は昨年と同じ時期よりは評判も良くたくさん寄付いただいております。ただ、まだまだPR不足という面もありますので頑張りたいと思います。

○大仙市長 県内での昨年の実績は大館市が7億円ほどで一番多いという状況です。大館なので返礼品にきりたんぼや比内地鶏がでているのだろうなと思って見ると、実は一番でているのが米なんです。なぜこの米どころ大曲仙北よりもでているんだということで、もっとPRするよう指示しています。

○まちづくり課長 先ほどドンパン娘が11月に東京に行かれるということでしたが、そこに私どもの課も行きましてPRする予定です。

○会長 ほかにございませんか。

○高橋泉委員 今年の大曲の花火の際、道の駅なかせんのトイレが大変なことになりました。JRさんのツアーでバスが10台以上連なってこられて、道の駅の駐車場はそんなに広くないのですが満杯にはいられて、出ていくにも大変でという状況でした。トイレも見ることがないくらい長蛇の列ができていました。特に女性がかわいそうで、男性のトイレにまで入っていました。来年もこのような状況になるかはわかりませんが、せめて当日だけでも簡易トイレを設置していただけたらなと思います。

○会長 ほかにございませんか。

(なし)

ないようですので、これで「その他」を終わります。

以上で、本日の協議会で予定されておりました案件等の審議は終了となります。

本日は長時間にわたりご協議いただきまして、ありがとうございました。これをもちまして平成30年度第4回中仙地域協議会を終了いたします。お疲れ様でした。

(午後5時35分 閉会)

中仙地域協議会運営規程第7条第2項の規定によりここに署名する。

会議録署名委員
